

【認知症対応型共同生活介護】

作成日 平成21年 6月26日

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0570707174
法人名	医療法人 仁恵会
事業所名	グループホーム夕陽の丘2号館
所在地	012-0055 秋田県湯沢市山田字中屋敷14番地 (電 話) 0183-78-0516
評価機関名	財団法人秋田県長寿社会振興財団 (LL財団)
所在地	〒010-1412 秋田市御所野下堤5-1-1
訪問調査日	平成21年6月26日

【情報提供票より】 (21年5月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 4 月 1 日
ユニット数	2 ユニット
職員数	16 人
利用定員数計	18 人
常勤	15 人
非常勤	1 人
常勤換算	15 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て 造り
	1 階建ての ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	27,280 円	その他の経費(月額)	580円+実費	
敷 金	有 (円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり		900 円	

(4) 利用者の概要 (5 月 30 日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護 1	1 名	要介護 2	8 名		
要介護 3	5 名	要介護 4	4 名		
要介護 5	0 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	73 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	須田医院、梨木歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事務長、管理者をはじめとして理念教育が徹底されており、職員もとても元気で入居者への思いやりと笑顔を大切にされている。また同法人で介護老人保健施設も運営され、24時間の医療連携体制が整えられている。ホームのすぐ隣には同法人運営の精神障がい者の生活訓練施設もあるが、地域住民からの理解と協力も得られており、高齢者、障がい者の方々も住み慣れた暮らしが実現されている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	職員の休憩室の確保について課題とされていたが、検討され現在の事務所内を休憩室として使用することで改善されていた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	評価に対する意義、目的を事務長、管理者は十分に理解し、職員全員が同じ気持ちで取り組むよう周知徹底されており、職員の対応もとてもすばらしく常に笑顔を大切にされていた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回開催される運営推進会議も行政がバックアップする体制ができており、日頃の入居者の状況などを報告しながら開催されている。また、地域住民からも理解と協力が得られており、グループホームとしての地域の役割を十分に果たしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	日頃の入居者、家族との関わりを大事にすることで、些細な事でも聞き逃さないよう職員全員に徹底されており、今までに苦情は特に見られない。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	地域会にも加入し、地域の一員として地域活動に参加され、地域住民との交流が図られ良好な関係が保たれている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域で安心した暮らしを支えるために「自立と相生（あいおい）」を基本理念として掲げ、一人ひとりにあった必要な援助で自立を支え、お互いが助け合い、価値のある人生を送っていただくことを目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念は常に目に入る場所に掲示されている。また、基本理念を実現するために三つの基本方針があり、上半期、下半期の年2回の研修の際に理念の共有について管理者等より話され、管理者、職員が一つとなって取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域会に加入し会員となっており、地域の行事には積極的に参加されている。また、小学校の生徒たちとの交流やホームの畑を近所の方から耕してもらうなど地域を大切にしながらも協力をもらい、とても良い関係性が作られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者や管理者は評価の意義や目的を職員に説明している。また、職員へ外部評価の結果を周知し、全員で自己評価を行い改善に向け取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、利用者の家族、地区会長、福祉事務所職員、事務長、管理者、ホーム長で構成されている。入居者状況、行事、預り金、事故関係等について報告し、関係者より意見や助言、指導を仰ぎながらサービス向上のために活用されている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所へも頻繁に行き来しており、市役所の生活保護担当者も随時入居者に面会にくるなど、十分に連携が図られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月に1回家族へ近況の手紙を書き報告している他、心身の状態の変化があれば、速やかに電話報告している。また、金銭管理については、3ヶ月に1回監査報告書を家族へ渡し、ホームの新聞は4ヶ月に1回発行されているなど家族に対しての対応もとても大切にしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情等を受付けるための意見箱が設置されており、日々の面会時の会話の中でも苦情や相談を引き出しやすいよう職員も話しやすい雰囲気を作るなど家族への配慮が感じられる。また、苦情に対する要綱や体制も整備されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	年に1度定期異動が実施されるが、ホーム内では必要最小限に異動を行うなど、なじみの関係を構築していくよう十分に配慮され、かつ、ユニット間の職員の連携や協力もできている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症関係の研修はもとより外部研修へも積極的に参加されている。また、研修参加後の報告においても、フロア会議等で研修内容の周知に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市管理者ネットワークに参加し、同業者との交流会、勉強会を開くなどサービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	入居に伴い、事前に本人、家族に対して十分に説明し、また、ホーム内の見学を行うなど安心感を持てるよう努め、入居後も寂しい思いや不安にならないよう職員の観察も十分留意し対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	単に入居者と介護者との関係としてだけでなく、常に人生の先輩として尊敬の念を持ちながら支えあいを大切にしており、食事作りや行事等でわからない時は入居者から教えていただくなど共に支えあい生活していくための場面作りに留意している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、本人の思いや願いなどを把握し、意思疎通が困難な方に対しては、家族から情報を得たり、声がけに対しての反応や仕草等で聞き出したり、感じとったりして、できるだけ本人の思いに添えるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を参考にしながら、入居者、家族が内容を見てもわかりやすく、入居者主体の暮らしを反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人、家族の要望を取り入れながら、定期モニタリングとカンファレンスが行われている。状態が変化した場合においても、関係者と話し合いながら検討し見直しが行われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同法人の看護師が24時間電話連絡または週1回以上訪問し、介護職員と連携しながら日常的な健康管理を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望する医療機関に受診している。また、協力医院、協力歯科医院等とも連絡を密にし協力関係を築きながら支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでできることと医療機関でできることを本人、家族へ説明し理解をいただきながら、その都度説明し家族への同意を得ながら対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	月1回のフロー会議の中で、プライバシーの配慮や個人情報の取扱いについても話されている。また、職員の声かけや行動などから日々の関わり方もプライバシーへの確保と尊厳の保持を意識し徹底されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は一人ひとりの生活スタイルを理解しており、本人のペースに合わせながら、その人らしい暮らしを大切にした支援をしている。外出や買い物に関しても個別性を尊重した支援がなされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から片付けまで一人ひとりの能力に合わせ役割を持ちながら、食の楽しみを職員、入居者全員が共有されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しむように支援している	入居者一人ひとりの希望やタイミング・健康状態に合わせて、週2～3回の入浴が楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ほとんどが女性入居者であるため家事全般の役割が多く、能力に応じた役割分担の中で職員も適切に感謝の言葉を掛けながら、その人らしい暮らしを続けるための支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周囲には、日常生活用品や食料を買うための店や、大型スーパーがあるなど、買い物外出等に関しては利便性があり、希望に応じながら外出支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	日中は鍵をかけない生活を普通として捉えており、玄関やユニット入り口にセンサーは設置されているが、一人ひとりの行動が把握されており職員が見守りながら自由に外出できるようになっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画に沿って年2回の避難訓練を実施しており、緊急時の連絡体制も整備されている。また、地域の方々や消防団の協力も得られている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により入居者の嗜好や希望を取り入れながら献立を作成している。また一人ひとりの水分量も把握され、状態に応じた摂取方法で支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周囲は季節を感じる数多くの花々や、廊下、居間などの共有スペースには写真や絵などが飾られ、心を和ませる雰囲気を出している。また、台所も入居者と職員と一緒に食事の準備や調理ができるようにガス台もそれぞれ設置され、多機能な調理台もあり、自立した生活に配慮した空間作りが見られる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの状態に合わせてのベッド配置の工夫や、各居室は、洗面台が設置され冷暖房も完備されており、本人のペースに合わせ、快適な生活が送れるよう配慮されている。		

※ は、重点項目。